

山里の修景と登山道整備による入込客の増加

おるう
尾籠地区地域活性化委員会（東栄町）

1 地域の課題と目標



岩山から尾籠集落を望む

私達が住んでいる尾籠は、山奥の中に孤立した集落で、現在、9軒19人が住んでいる。ここ50年間に、家の数が約半分になってきた。また、65才以上の割合は、19人中11名で58%である。小中学生は1人もいなく、賑やかな子供の声は聞こえてこない。

東栄町には、このような集落が多く点在しているのが現状である。その多くの集落で過疎高齢化が進み、限界集落と言われている。このままでは、後数十年先には隣の小路野地区のように集落が消滅してしまうことが予想される。

このような中であって、わずかな希望の光は最近の健康ブームによって、休日になると区内にある標高700mの岩山に都会から登山客が訪れるようになってきたことである。

そこで、この人達が再び訪れてみたいくなるような地域づくりをすることによって、元気な地域にしていくため、交流人口増を目指すことにした。

2 事業の概要

(1) 桃源郷づくり(山里の修景)

私達の集落では2年前から、地域にある集会所で高齢者の生き甲斐作りとして集会を開き、住民同士のコミュニケーションを深めてきた。この活動は、登山者を温かく迎えることにもつながると考え、これからも「お楽しみ会」を推進していくことにした。

また、地区の入口付近から登山者が車を駐車する地区の一番高い所にある集会所までの道路周辺に花木を植えて、地域を綺麗にすると共に、杉や檜などで地域が日陰になってくることを防ぐようにして、登山者に綺麗な地域を見てもらうようにする。さらに、都会に出られた地区出身者や登山者などと交流する場をもって積極的に刺激を受けるようにすることにした。

(2) 登山道整備

現在、国道151号線から尾籠地区に入る道が分かりにくいし、駐車場があるかどうか迷われる登山者がいるので、案内看板を設置することにした。

また、登山道を歩きやすい道に整備したい。岩山の頂上近くには、花祭りを始めたと言われている「行者様」と、仏教を広めたと言われる「弘法様」の石仏が祀られている。そして、岩山は、岩の山であるので、紅葉や見晴らしが最高であるし、高山植物のアカヤシオやホソバシャクナゲの群生も見るができるので、これらを紹介する紹介看板を設置する。

さらには、岩山を紹介するパンフレットを作成して「とうえい温泉」などに置き、PRに努めることにした。



尾籠集落から見た岩山

(3) 具体目標

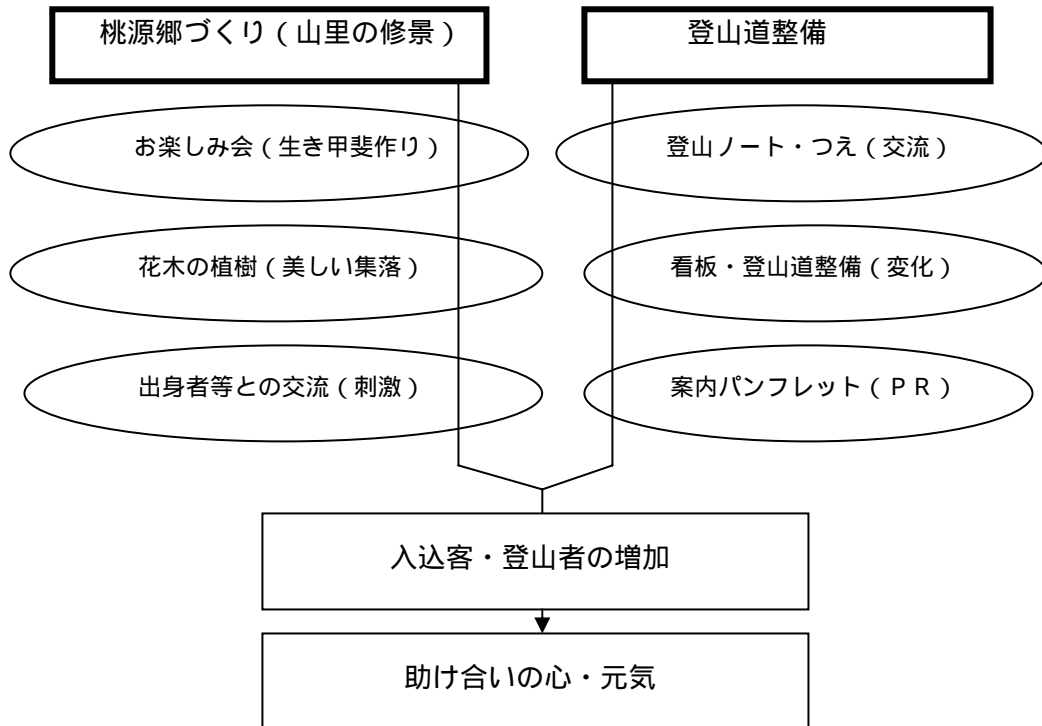
平成18年度は、岩山登山者数が年間100人程度と思われる。それを19年度には、1.5倍の150人として考えた。

なお、本事業の期間を考え、平成19年6月から20年1月までの8ヶ月間の登山者数を100人とすることを、今回の具体目標とした。

(注) $150 \div 12 \text{ヶ月} = 12.5 \text{人}$ (1ヶ月平均の登山者数)

$12.5 \times 8 \text{ヶ月} = 100 \text{人}$ (8ヶ月間の登山者数)

(4) ねらいと活動内容の概略図



アカヤシオ



ホソバシャクナゲ



紅葉の岩山

3 具体的な実施結果

(1) 主な事業実施日程

年 月 日	内 容	備考(場所等)
19, 5, 23 以後数日	<ul style="list-style-type: none"> 世話係3人の打合せ 企画提案書の作成 看板・印刷などの業者への相談 本事業概要について尾籠地区各家庭への相談・周知 	集会所 各業者 各家庭
19, 6, 1	<ul style="list-style-type: none"> 登山ノートの設置 	集会所前
19, 6, 16	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会「布ぞうり作り」 講師 東園目 荒波はま子さん 	集会所
19, 8, 25	<ul style="list-style-type: none"> 地区出身者との懇親会・尾籠会 	集会所
19, 9, 25	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板設置作業 	国道～尾籠
19, 10, 2	<ul style="list-style-type: none"> 花桃等の栽培学習会 講師 農業改良普及所 大羽さん 登山者用杖作成 花桃の植える場所の相談等 	集会所
19, 10, 10	<ul style="list-style-type: none"> 岩山の看板設置と丸太のベンチ作成 	岩山登山道
19, 10, 12 以後数日	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭へ花桃の配布 各家庭にて植え付け作業 	各家庭
19, 12, 16	<ul style="list-style-type: none"> 氏神祭典余興「お楽しみ会」 カラオケ大会 	集会所
20, 1, 19	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会「健康体操」 講師 伊藤聖子さん(アドバイザー) 	集会所
20, 2, 17	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の活動についての反省と今後の活動についての話し合い 	集会所

(2) 桃源郷づくりの実践

ア お楽しみ会

集会所にて、高齢者などが集まり、体験談を紹介したり外部講師を招いて体験活動などを行ったりしてきた。このお楽しみ会は2年前から始め、2か月に1回程度開催しているが、次のとおり、これまでに14回開催した。

回数	日 期	内 容	講 師	備 考
第1回	18, 1, 21	昔の尾籠の様子	講師 金指 和	印; 地元住民
第2回	2, 18	戦争体験談1	講師 真田 良一	
第3回	3, 11	ビデオと戦争体験談2	講師 真田 良一	
第4回	4, 15	岩山のお祭りカラオケ	講師 鈴川 静	
第5回	6, 10	介護保険制度と戦争体験	講師 尾崎 真田	
第6回	8, 19	この地方の方言 三河地方の方言・防犯	講師 赤谷 上田 講師 鈴木、田口	
第7回	10, 7	尾籠の文化財	講師 金田 新也	
第8回	19, 1, 20	私の体験談 冬の交通安全・防犯	講師 真田けい 良一 講師 駐在 田口	
第9回	2, 24	貨幣の変遷 生活改善グループの活動	講師 鈴川 静 講師 鈴川ちず子	
第10回	6, 16	布ぞうり作り	講師 荒波はま子	
第11回	8, 25	尾籠出身者との交流会「尾籠会」		

第12回	10, 2	花桃等の栽培学習会	講師 農業普及所職員
第13回	12, 16	カラオケ(氏神祭典当日の余興)	
第14回	20, 1, 19	健康体操講義と実技	講師 伊藤 聖子



布ぞうり作り

写真は、平成19年の東栄町の広報誌「広報とうえい7月号」の表紙に掲載されたものである。

最近、家庭内でフローリングの台所が普及しているため、布ぞうりは、大変人気があり、聞きつけた他地区の方も、駆け付けて参加した。その後、地区内でもブームとなり、1軒で、沢山のぞうりを作り、尾籠会に出席した都会の方に土産として配った人もあった。

イ 花木の植樹

次に、花木の植樹についてであるが、まず、農業普及所の方を講師にお招きして「花桃等の栽培学習会」を実施し、その後、秋、地区内にある約600mの道路周辺に花桃を植えた。尾籠は小さな集落であるだけに、その効果も早く現れ、数年先には中心の道路周辺に花桃が咲き乱れ、綺麗になっていくことが期待される。

アジサイは、現在挿し木で苗を作っている段階である。4月に花が咲く花桃の間に、6月に花が咲くアジサイなどを植えるなどして、四季折々、綺麗な地区になることを願っている。



挿し木1年目



挿し木2年目

ウ 出身者との交流

右の写真は、地区出身者との交流の時の記念写真である。また、次は中日新聞(19, 8, 26)に載った記事である。

地元離れた人と在住者が 懇親会

東栄町月の尾籠地区の生活改善センターで25日、故郷を離れた人達と地元在住者との初の懇親会が開かれ、旧交



集会所にて地元出身者との記念撮影

を温めた。名古屋や埼玉県などからきた15人と地元住民15人が出席。テーブルには地元の人達が作った五平餅や、各家庭から持ち寄ったトマトなどの野菜や漬け物が並び、遠来の客をもてなした。食事をしながら全員が代わる代わる立ち上がって、近況報告や懐かしい昔話をした。埼玉県所沢市から来た市川共興さん(65)は「50年ぶりに小学校の同級生に会えてよかった」と喜んでた。

(3) 登山道整備の実践

ア 登山ノートと登山用つえの作成

まず、登山ノートを作成し、6月から記入いただくことにした。このノートを見ると、名古屋や浜松など遠路からの登山者が多いことが、分かった。また、ノートの末尾に感想を欄を設けたところ、「案内看板ができて感謝しています」とか、「地元の方から温かい声かけをしていただき嬉しかった」などと書かれており、このノートが心の橋渡しになっていることが分かり嬉しく思った。



登山ノート

登山者用つえは、10月2日に作成した。各家庭から2本程度、適当な材料を持ち寄ってもらったところ、素晴らしい年代物のつえが集まった。また、数十本竹を用意し、それにも「尾籠組」との名札を付けてつえ作りをした。作ったつえは、登山者用駐車所の生活改善センターに置き、いつでも利用できるようにした。



つえ作りの様子



出来上がった登山者用つえ

イ 看板・登山道整備

国道から集落への入り口付近には大きめの看板を設置した。また、途中の三叉路には、絵のついた看板を立てた。そして、尾籠集落についた所には、「ようこそ尾籠へ」との歓迎の言葉を入れた看板を立てた。

岩山山頂付近の湧き水の所には、「弘法様の湧き水」のいわれを書き、弘法様の絵をかいた綺麗な看板を設置した。



看板設置の様子

そのいわれは、次のようである。
「昔、弘法様が岩山に登ったとき、
のどが渴きつえで岩の上を「トント
ン」と付かれたところ不思議な
ことに、岩の上であるのに、こん
んと水が湧き出したそうである。
住民は毎年、岩山のお祭りの日に
この水を飲むことによって、無病
息災に暮らしてきたそうである。

岩山に登山された皆さんもぜひ
この清水を飲んで、健康に暮ら
しててください。

なお、この清水の効き目は1年
しかないそうなので、1年以内に
再び岩山に登って、清水を飲みま
しょう。」

そして、登山道のところどころ
には、休憩用の丸太のベンチを皆
で協力して作った。
出来上がった手作りベンチに初座
りし、「にっこり」と、うれしさを
共有した。

看板やベンチなどは、努力の結果が具体的
に目に見えるものであるだけに、それが、次
の活動につながる原動力になるように思える。



弘法様の清水看板



丸太のベンチ作り



できたベンチでにっこり



丸太のベンチ作り

ウ 案内パンフレット
 手作りの案内パンフレットを作成して、とうえい温泉などに置き、岩山をPRすることにしました。

このパンフレットには、「岩山に登った後は、とうえい温泉で汗を流して帰宅することをお勧めします」などと、温泉のPRもしているので、温泉ではパンフレットを好意を持って置いてくれている。

なお、温泉までは約10分と大変近くにあることも幸としている。

とうえい温泉と岩山の案内

東栄町尾籠住民有志

裏面案内図のとおり、東栄町の中心部から車で約10分の所に、尾籠(おろう)という地区があります。平成19年現在、9軒19人の住民が住む、小さな集落です。この集落の行き止まりである生活改善センターに車を止め、標高700メートルの岩山に登ってみましょう。1時間弱で登れます。

岩山は手頃に登山でき、見晴らしが素晴らしいことから、「愛知の百名山」に選ばれ、最近では休日に、遠くからも訪れる人々が増えています。

岩山に登った後は、とうえい温泉で汗を流して帰宅することをお勧めします。

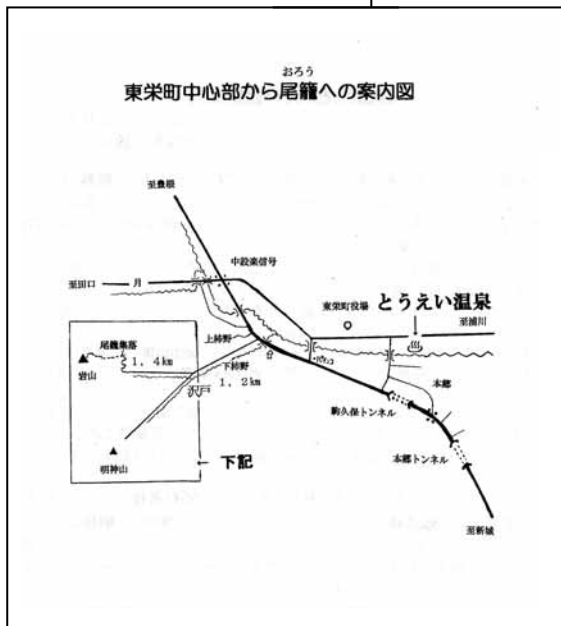
～ 日程具体例 ～

東栄町本郷(10時半)ー尾籠改善センター(10時40分)ー岩山山頂休憩・昼食(11時半～12時半)ー下山ー尾籠改善センター(13時)ーとうえい温泉(13時10分～14時半)ー

この温泉は、交流人口を増やそうとして、ふるさと創生資金を投じて東栄町が造った温泉です。近隣の温泉に比べて規模が大きく良質の療養泉であることから、高い人気が続いています。(定休日は毎週水曜日。10時～21時営業)

岩山の山頂には、花祭りを始められたと言われている行者様や、仏教を広められたと言われている弘法様が奉られています。東栄町で1番高い、明神山(標高1,016m)がそびえ立つ光景が間近で見られて最高です。さらに、南アルプスなどの素晴らしい山並みも眺められますし、高山植物アカヤシオやシャクナゲも見られます。群生しているシャクナゲは、5月上・中旬が見ごろです。

毎年4月15日は岩山のお祭りです。高齢化などにより、岩山まで登れる住民が少なくなっていますので、地区以外の皆さんが参加してくださり、賑やかなお祭りになることを、地域住民は望んでいます。ぜひ、お出掛けください。



来年度は、カラーのパンフレットに変え、岩山のお祭りのパンフレットも作成配布する予定である。

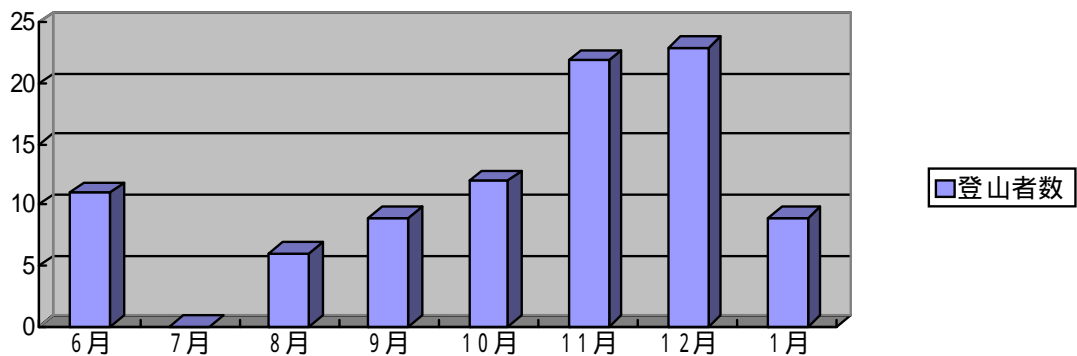
4 事業実施の効果

平成19年6月から平成20年1月までの8ヶ月間の登山者数は、次のグラフのようになった。(ただし、1月分については1月20日までの人数) これによると、8月頃から12月頃にかけて順に登山者が増えていることが分かる。

8か月間の合計目標の100人に対して実績は92名だった。しかし、4月の岩山のおまつりの参加者41名を含めると、133名となる。

なお、7月は登山者がノートに記入されなかったと思われる。そのほかの月でも、登山ノートに記入しなかった人もいると思われるので、実際の登山者はもっと多いと思われる。

月別登山者数の推移



4月の岩山のお祭りは、例年は15名ほどであるが、本年度は41名が参加し、賑やかなお祭りとなった。PRすることの大切さを感じた。地元の駐在さんも参加してくれて、ハーモニカで「ふるさと」等の曲を演奏していただき、有意義な一時を過ごすことができた。

岩山の御馳走は山に登って健康作りをすることが第一であるが標高700mの山頂で振る舞われる御神酒も、最高である。



岩山山頂での神事



岩山広場での交流懇親会

12月、集会所で開催する氏神祭典は、本年度は余興としてお楽しみ会を行った。当日、岩山に登られ、下山してきた名古屋の方達が飛び入りで、踊りやカラオケに参加してくださり、賑やかなお祭りとなった。お賽銭も奮発してくれた。

この取り組みによって、住民相互の助け合いの心が深まったことや、気力が見られるようになってきたことが、一番の成果のように思われる。また、登山者を温かく迎える「おもてなしの心」のようなものが、住民の中に自然にできてきたこともいいことだと思う。



登山客と民謡を踊る氏神祭典当日の様子

5 今後の課題及び展開

町の元気な地域づくり支援事業に御願いしていくことと、住民独自の活動課題は次のことが考えられる。

(1) 町元気な地域づくり支援事業

- ア 綺麗なパンフレットの作成
- イ 安全対策の強化；山頂付近の土橋の改修など
- ウ 花木を増やす

(2) 住民独自の活動

- ア お楽しみ会や住民と出身者との交流会の充実
- イ 登山道の一層の整備等；セラピーロードとしての活用

これらの課題の中で、特に安全対策については早急に改善していきたい。

なお、尾籠地区には、特色ある取り組みとして、イノシシ牧場や竹炭の製品作り、直売所・へぼハウス、クマガイソウ・エビネ園などがあるので、今後これらを生かした地域づくりを推進し登山者増を目指したい。



イノシシ牧場



竹炭の製品作り



直売所と、へぼハウス



クマガイソウ・エビネ園

今回、県地域政策課から委託金をいただいたことによって、私達がやりたかった活動が進んだ。

今後は、私達住民は少数であるが、東栄町から指導をいただきながら、できる努力を地道に重ね、集落を守り続けていきたい。